

校報 あずまね

文責：紫波町立紫波第三中学校 校長 角谷 隆章

2026 年 3 月 12 日（木）

～伝え合い 響き合い 高め合う～

紫波町立紫波第三中学校 学校だより No.14

【学校評価保護者アンケート】

標記アンケートの結果と考察です。ご覧ください。調査期間がちょうど感染症の流行と重なったこともあり、回収率が昨年度比較で3ポイント下回りましたが、各ご家庭におかれましてはお忙しい中、多くの方々にご協力をしていただきました。誠にありがとうございました。回収率 86% 4 点満点

	評価項目	1学年	2学年	3学年	全体
1	学校は、子どもたちが生き生きと楽しい学校生活を送ることができるように努めている	3.1	3.1	3.3	3.2
2	学校は、子どもたちにわかりやすい授業をしている	2.9	3.1	3.2	3.1
3	学校は、保護者や地域の願いにこたえようと努めている	3	2.9	3.1	3
4	学校は、子どもたちの実態を把握し、理解しようと努めている	3	2.9	3.3	3.1
5	学校は、保護者からの連絡や相談に、丁寧に対応している	3.2	3.1	3.4	3.2
6	学校は、いじめ未然防止や子どもたちの問題となる行動について、適切に指導している	3.2	3.2	3.3	3.2
7	学校は、校報や学年・学級通信で、学校の様子をよく伝えている	3.4	3.4	3.4	3.4
8	学校は、子どもたちの豊かな学習活動のために環境を整えるように努めている	3.1	3.2	3.3	3.2
9	学校の諸行事や諸活動は、子どもたちにとって有意義なものになっている	3.1	3.2	3.4	3.2
10	学校は、保護者や地域の方々との連携を大切にしている	3.1	3	3.4	3.2
	全 体	3.1	3.1	3.3	3.2

一昨年度、昨年度に引き続き、10 項目で行いました。アンケート結果からは総じて良い評価（全体で 3.2＝80 点）を頂いています。昨年度比で±0 ポイントです。ただ、学年ごとに細かくみると、昨年度比較で 3.0 以下の項目が増えており、原因を分析して対策を講じる必要性を感じています。

項目 6 については、昨年度比で+0.2 ポイントになっています。これは、生活アンケートを学期 1 回から 1 か月に 1 回に増やして実施して 2 年目ということで、その成果が徐々に現れてきているものと捉えています。今後も教職員の研修等を取り入れ、具体的な支援の方法を学びながら、なお一層生徒に寄り添い、安心して生活できる環境を整えていきます。

自由記述には、授業（学習）、行事、生活支援・生活指導、教育環境、「働き方改革」を含む教職員の業務等に関するご意見が多数寄せられています。中には学校では直接できないような内容（校舎の補修、スクールバスの運行等）もありますが、鋭意、教育委員会とも連携し、できるところから、取り組んでいき

たいと考えています。

また、今年度実施した「卒業アルバム制作に関する取組」、「部活動学校延長に係る保護者会練習への移行の取組」についてもご意見をいただいています。部活動については、町としての地域展開（移行）の進捗状況、加速化する生徒数の減少（本年度 127 人から 5 年後は 82 人）、教員の「働き方改革」に鑑みて、関係者で協議しながら、よりよい方向性について検討を重ねていきたいと考えています。

率直なご意見をいただいたことに感謝申し上げます。学校は「人間が社会の中でよりよく生きていける力をつける場」であるという共通認識のもと、基本的には生徒たちが自立する力をつけることが肝要であることを念頭に、保護者や地域とともに教育活動を推進したいと考えますので、引き続き、ご理解・ご協力をお願いします。

励ましや感謝の気持ちを届けてくださったご意見も本当にたくさん頂戴しています。保護者や地域の皆様方におかれましては、改めまして、この 1 年間のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

【 式 辞 】

本日行われました卒業証書授与式と修了式の式辞を掲載します。卒業生には、これから自分の人生を自分なりに切り拓いていくこと、在校生には、中学校生活が益々充実したものになることを願って話しました。

<卒業証書授与式>

～前略～本日、こうして卒業証書授与式をとり行うことができました。関係するすべての皆様方に心から感謝申し上げます。

昨日は、東日本大震災から 15 年目にあたる日でした。15 年は、もしかしたら、ひとつの区切りになるのかもしれませんが、特に被災地の方々にとってみれば、復興はまだまだ道半ばです。

私たちも「3・11 集会」をもちました。復興に対するいろいろな思いを持つ中、まさに今、本校をはじめ、県内の多くの中学校では卒業式が行われています。みなさんには、当時に想いを馳せ、卒業式を開催できることに対する感謝の気持ちを忘れず、これからの決意を各々がしっかりと見つ時間にしてほしい。そう願っています。

さて、45 人の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。いよいよ中学校生活集大成の日を迎えました。今、一人ひとりに卒業証書を渡しましたが、予想通り、全員がとてもいい表情をしていました。一人ひとりの気持ちが指先からも伝わってきました。不安と期待が入り混じる中、入学式で「はい」と返事をしたあの日からまもなく 3 年が経過します。私はこの 3 年間、みなさんの様子を見てきましたが、こ

うして、心身ともにたくましく成長した姿をみていると、心からとてもうれしくなります。

特に、最高学年になった今年度は、修学旅行、運動会、三中祭、部活動、地域行事……、すべての活動において、自分たちで楽しみつつ、全体を成功に導くため、“今、どうするべきか”をよく考え、話し合い、行動に移す姿が見られました。私が感じたのは、皆さんの「優しさ」です。特筆に値します。修学旅行では体調を崩す生徒が多く出る中、お互いを気遣いながら過ごす様子が見られました。運動会では、組団長同士がそれぞれの組団に敬意を払い、全校で楽しむ雰囲気をつくりあげていました。1, 2年生も楽しそうで、さすが3年生というところを存分に見せてくれました。部活動や、三中祭での合唱練習と合唱発表、特設合唱部の小学校での合唱披露など、すべてにおいてはっきりと見られたこの「優しさ」はきっとこれからの人生において、自分を支え、成長させてくれる財産になってくれることでしょう。

みなさんには12月の授業で私からメッセージを贈りましたが、最後に、最近みた印象に残っていることばを贈ります。それは「**悩みには正解がない時もある。最善を尽くすことに意味がある**」ということばです。誰が言った言葉なのかはわかりません。時間は経過します。悩み過ぎず、その時々で「これだ!」と思ったことに、最善を尽くす。これからの人生、こんな姿勢で過ごすことも大事になることでしょう。「**悩みには正解がない時もある。最善を尽くすことに意味がある**」です。

保護者の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。中学校は、心身ともに大きく、たくましく成長する3年間です。今、立派に成長した、ここにいるお子様の姿をみたとき、きっと、お一人お一人、感慨深いものがあるのではないのでしょうか。私は3年間、生徒たちの様子を見てきましたが、成長した様子に頼もしさを感じています。これからも支えになり、それぞれの生活を充実させてくれることを願っています。これまでの学校に対するご理解とご協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。

ご出席いただいたご来賓の方々におかれましても、本校の教育活動にご理解・ご協力を頂き、ありがとうございました。引き続き、卒業生へのご支援・ご協力をいただければ幸いです。

最後になりますが、卒業生45人の前途を祝し、みなさんの未来が輝かしいものになることを祈念して私からの式辞といたします。

令和8年3月12日
紫波町立紫波第三中学校
校長 角谷 隆章

<修了式>

午前中の卒業式、みなさんの姿勢がとてもよく、大成功でした。いい形で3年生を送り出すことができましたと思います。ありがとうございました。

さて、1, 2年生の今年度の学校生活は今日で終わりとなります。この1年、紫波三中では、運動会や文化祭をはじめとした多くの行事を行うことができました。また、普段の授業も予定通り、すべて行うことができました。私は、心からよかったと思っています。

今年は、冬のオリンピック・パラリンピック、野球の世界大会 WBC、サッカーのワールドカップ……、と、スポーツに関する世界大会がたくさん行われる年です。すでに終了した冬季オリンピックでは、この中にも数々の感動をもたらた人がいるのではないのでしょうか。

私は、同じメダル受賞でも、選手によって受け止め方が違うというところから、改めて、オリンピックまでのそれぞれの選手が歩んできた道のりや今後歩んでいこうとする道のりを感じとることができました。

女子フィギュアスケートの中井選手は初出場で銅メダル。3位がわかったときにはしゃぎようから、純粹にうれしかったことがわかりました。後のインタビューでは「4年後は、さらに上からの景色をみてみたい」と話しています。今後の力強い決意が伝わるものでした。

同じく女子フィギュアスケートの坂本選手は銀メダル。中井選手より順位は上でしたが、成績が分かった直後は泣いていました。悔し涙でした。彼女は、前回の銅メダルはうれしかったけれど、今回は金を狙っていたので悔しい気持ちがあったと話しています。最後のオリンピックにかけていたことがわかります。でも表彰式以降は晴れやかな表情に戻り、次は指導者としてがんばりたいと話しています。メダルの色や順位にこだわることは決して悪いことではありませんが、それは一つの結果です。私は、結果だけにこだわってはいは、この二人のような様子はみられなかっただろうと思います。

『**目標を決めて努力をする。結果が出ます。それをどう受け止めて次につなげるか**』。スポーツに限らず、生きるって、その繰り返しではないのでしょうか。**結果を点とするなら、努力が線**。人生、点と線でつながっていくのです。**自分の受け止め方と努力次第で、その線や点が細くなったり、太くなったり**。太くなればなるほど充実感が大きくなり、細くなればなるほど充実感は小さくなる。そして、これは**本人にしかわからないこと**です。二人をみていれば、そのことが十分にわかります。“**自分の人生を自分でいかに生きていくのか**”ということです。

みなさんが、この1年間の点と線、結果と努力について、自身で振り返り、今後の生活を充実させていくことを願っています。

さて、みなさんはどんな姿で4月を迎えたいですか？ そのために何をしておく必要がありますか？よく考えて明日から始まる春休みを送るようにしてください。4月からは新しい学年での生活が始まります。元気に登校できるように心から願っています。

進級おめでとう。これからのみなさんの活躍を楽しみにしています。

令和8年3月12日 紫波町立紫波第三中学校 校長 角谷 隆章

おかげさまで持ちまして、今年度の校報「あずまね」は本号を持ちまして最終号となります。お読みいただきありがとうございました。写真を交えながら、学校の様子を中心にお伝えしてきましたが、まだまだ不十分な点があったかもしれません。今後も工夫を加えながら、発行したいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。